CHIHOMEN NEWS

2019年7月24日 VOL.42 近畿財務局奈良財務事務所

【産官学共催】女性のための働き方発見イベントを開催しました 『生き方をデザインできる女性になるために~世代を超えて、立場を超えて~』



日時

2019年5月20日(月) 13:00~15:40

場所

帝塚山大学 奈良・東生駒キャンパス 図書館内 『C³(シーキューブ)』

プログラム

第1部 基調講演 講演者: 大里綜合管理株式会社代表取締役 野老真理子氏

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター:帝塚山大学経済経営学部教授・学長補佐 菅 万希子氏

パネリスト:大里綜合管理株式会社代表取締役 野老真理子氏、

有限会社ナイスケアサポート代表取締役 井尻祥子氏、

川端運輸株式会社代表取締役社長 川端章代氏、

Eye lash K代表 松村紗江氏、帝塚山大学経営学部3年 中岡舞氏

第3部 交流会

背 勇

開催の経緯

奈良財務事務所のちほめんが参加した 地方創生の取組み『第2回高校生ビジネスグランプリIn斑鳩』の主催者である 斑鳩町商工会女性部から、「仕事と家 庭の両立に関する悩みを解決し女性の 就業・起業を後押ししてほしい」、

「起業を目指す女性や起業間もない女性同士が悩みを相談できる場を作ってほしい」という要望を受け、今回の企画が始まりました。今回の企画の趣旨から、将来を担う大学生など若い世代のキャリアプランの形成にも役立ててほしいということで、奈良財務事務所が連続講義でお世話になっている帝塚山大学とも連携し、帝塚山大学及び斑鳩町商工会女性部との産官学共催で実施することになりました。

企画のポイント

- ①先輩経営者による講演や、パネルディスカッションを通じて、多様な働き方の 認識、「仕事と家庭を両立」するヒントを提供
- ②起業を目指す女性や経営者同士のつながり作りを応援



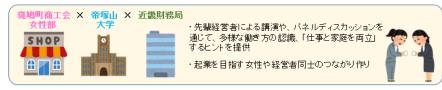
【企画書】

女性の就業・起業により、地域経済が活性化!!

女性のための働き方発見イベント

『生き方をデザインできる女性になるために~世代を超えて、立場を超えて~』

女性が働くうえでの主な不安や悩みは、「仕事と家庭の両立が難しい」こと。 働く女性は不安・悩みを共有、情報交換する場が少なく、また経営や事業に必要な知識・ノウハウ不足に悩むことも多い。









地域経済の活性化



イベント開催まで

企画が始動してからイベント開催まで、帝塚山大学 及び斑鳩町商工会女性部との三者で、イベント内容 について打合せを重ねました。

イベントの告知にあたっては、地元新聞での記事掲載、大学による駅でのポスター掲示、関係先へのチラシ配布などが功を奏して、当日は約40名の方々に参加いただきました。

イベントのフライヤー

イベント当日の模様(1)

第1部 基調講演 大里綜合管理株式会社代表取締役 野老真理子氏

自身の経営する不動産会社で多くの地域活動を行うとともに、学童保育の整備や子連れ出勤制度の取り入れなど、地域や女性を全力でサポートされている野老氏を講師に迎え、講演いただきました。



野老 真理子氏 (大里綜合管理株式会社 代表取締役)

1985年淑徳大学社会福祉学部卒業後、母が設立した大里綜合管理に入社。1994年代表取締役社長(現在に至る)。2007年NPO法人大里学童KBAスクール代表。2008年千葉県男女共同参画推進事業所表彰(奨励賞)。2010年「子どもと家族を応援する日本」内閣府特命担当大臣(少子化対策)表彰、地域づくり総務大臣表彰(個人表彰)。厚生労働省社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」委員などを歴任。PHP松下幸之助塾(2015.7)の紙面や、テレビ東京系カンブリア宮殿(2015.11)において様々な活動が紹介される。

常識に捉われず「気づき」を大切にし、できることからコツコツと行動することが、働きや すい職場環境の実現、地域の活性化に繋がる!

【講演内容】

大学卒業後、母が経営していた不動産会社に入社。約10年間社員として勤務したのち、34歳で代表取締役に就任し、ちょうど25年間経営者をしている。その間、3人の子供を産み育て、父母の介護も経験。主人の子育て・介護に対する協力もあり、自分の中で後ろ指は差されないと言えるように何とかやってきた。



最近は、働き方改革やCSRなどと言われているが、<u>私の場合はせざるを得ないということでやってきたこと</u>に、後から言葉がついてきたという印象。会社は社員30名、年商5~6億円。売上の1/3が売買・仲介手数料、1/3が草刈りなどの不動産管理業務、1/3がリフォーム・新築などの建築業務である。



○地域活動(地域貢献)が本業に繋がる!○

代表取締役に就任して3年目以降、 <u>毎朝社員全員で社内を掃除する「環境整備」の時間を設けて、</u> <u>安全で気持ちよく働けるようにしている</u>。取組を始めた頃は、社員が反発し半数近くの者が辞めて しまったが、今ではこの取組が、社員それぞれに、顧客や地域の人たちの困りごとに気付き、解決方法を 考え、行動するといった習慣をもたらし、<u>1,000件以上もの業務改善と、250件以上もの地域活動に</u> 繋がっている。

【地域活動の具体的事例】

- ①「公民館の予約が取りづらい、営利活動には使えない」という地域の声に気付いたことがきっかけで、会社の会議室を地域の人々に開放し、雑貨を販売する店舗などとして利用いただいている。
- ②社屋の2階で月1回30食限定で地域の主婦が日替わりシェフになるレストランを開くなど、「地域の明るい公民館」として、会社にあるものを地域住民に利用していただく。
- ③「学童保育が欲しい」という地域の声に応えて、小学5年生以上に"給料"を支払い、先生になってもらう形で学童保育を開催しており、夏休みには小学生から高校生まで70人以上が参加している。

こうした取組の結果、<u>会社を訪れる人の99%が本業(不動産関係)の顧客としてではないが、会社の業務を知って</u> もらうきっかけとなり、本業にも繋がっている。

また、当社には、子連れ出勤で週2回午前中だけ勤務する者、65歳以上で週3~5回もしくは午前中だけ勤務する者、引きこもりから脱出するために週1回午前中だけ勤務する者、また帰国子女など、<u>様々な人が、様々な勤務形態で働いている</u>。「人は成長する・人は育つ」の信念のもとに採用し、一人ひとりのペースで頑張っている。ほかにも、当社では、親子採用や、友達採用も行っている。<u>地域の人々と様々な繋がりがあることで、好循環を実感している</u>。こうした縁故者等の採用は、世間では良くないと言われているが、世間の評価については参考にする程度で、気にしないことにしている。

○今後の展望など○



所得13万円で豊かに暮らせる地域を作ろうという取組を始めている。家賃・住宅ローンに3万円、食費に3万円、光熱費を含む経費に3万円、貯金に1万円とすれば所得13万円で生活できる。時給1,000円で週4日働いて所得がほぼ13万円、残りの3日は畑仕事や地域の助け合い活動ができることになる。これにより空家・空地問題、少子高齢化、地方崩壊といった地域の課題を解決できればと考えている。

会社に入りたくて入った訳ではないが、**目の前のことを避けることなく取り組んで来たら好きに なり楽しくなってきた**。その考えのもとにいろんな人が集まり、コミュニティがうまく展開している今を嬉しく思っている。

第2部 パネルディスカッション

仕事と家庭を自分らしく両立するにあたり、「生き方をデザインできる女性になるためにはどうすればいいのか」をテーマに、 パネルディスカッションを行いました。コーディネーターには、女性の起業を数多くサポートしてこられた帝塚山大学の菅教 授が、またパネリストには、野老氏に加え、奈良県で活躍中の女性経営者や帝塚山大学の学生に登壇いただきました。

【コーディネーター】

菅 万希子氏 (帝塚山大学経済経営学部経済経営学科 教授·学長補佐)

京都大学経済学研究科修了博士(経済学)、MBA(経営学修士)。結婚後、企業で様々な部門やマネジメント職を経験、経営コンサルタントなどを経て、現職。専門は医療経営サービスマーケティング。数多くの起業家向け、経営者向けセミナーで講演を行うほか、地元企業や学生ともに地元産品を使った製品を開発するなど、地域連携事業を多く手掛ける。奈良県中小企業振興対策審議会委員、生駒市商工観光ビジョン懇話会座長などを歴任。



【パネリスト】

野老 真理子氏

※プロフィールは第1部(基調講演)を参照

井尻 祥子氏 (有限会社ナイスケアサポート 代表取締役)

21歳から国立西別府病院付属看護学校卒業後看護師として23年間、病院勤務、内32歳から47歳まで師長職。その間、産休を取りながら 3人の子どもを出産。47歳で病院を退職し、2002年に奈良市内で介護事業を起業、現在に至る。出身は大分県、家族は夫と息子、娘2人。 介護事業起業の経緯は、2000年介護保険制度発足時に介護支援専門員(ケアマネジャー)の資格を取得。その当時、病院が奈良市より 委託された在宅介護支援センターに異動となり、介護の仕事に携わる。その時の経験から、介護の仕事の奥深さに触れ、介護の仕事を 自分のライフワークにしようと起業を決意。



川端 章代氏 (川端運輸株式会社 代表取締役社長)

短大を卒業後、1978年から奈良市内の眼科病院で検査補佐や受付業務に従事。1994年、実父が経営する川端運輸株式会社(奈良県大和郡山市)に事務職として入社。1997年、病気となった義理兄に代わって部長職に就き、未経験の配車、得意先まわりなどに奔走。2000年より専務取締役として、財務以外の業務を担う。2008年7月、代表取締役に就任、現在に至る。



松村 紗江氏 (Eye lash K 代表)

1999年美容師免許取得後、岡林株式会社(美容室)に就職し、各種美容コンテストで優勝を果たす。美容師として勤務する傍ら、 住環境コーディネイター2級の資格を取得。2008年長男出産、直後から美容師の仕事を再開。2013年アイリスト資格を取得し、2016年 マツエクサロン『アイラッシュK』を開業。同年斑鳩町商工会女性部部長に就任し、地元商工業の活性化に取り組む。2018年サロンを拡張し、 女性スタッフの働きやすい環境づくりに努めている。



中岡舞氏(帝塚山大学経営学部3年)

学校の先生になりたいと思っていたが、兄の就職の関係で、母の経営していた不動産会社に入社。現在、ある意味学校の先生のような活動もできているので、どの方向から登っても大丈夫ではないかと思う。夫が育児・介護に積極的に参加、我が家では男女での一般的な役割分担はなく、世間体は気にせず、やれることをやれる人がするというスタンス。女性は様々な悩みを持っているが、より広い視点でとらえて、今ある女性の課題を次の世代の為に私たちがやるんだと思い、各々の立場で社会の一員として女性の固有の課題に向き合い、対処することが大切。





手に職があった方がいいと思い、看護師になった。士長(中間管理職)となったことで思うように仕事ができなくなり、ケアマネ制度ができたこともあり起業。経営に関して無知であったため失敗するイメージがなく、軽い気持ちで起業。育児に関して夫のサポートはなく(夫本人はサポートしたつもり)、職場の仲間同士で助け合い乗り切った。「こうあるべき」という固定観念が強くある人や、周囲からどう見られるかの比重が大きい人は好きなことができないと思う。

出産後すぐに美容師として復帰したが、自分が思うように仕事と向き合えない時期もあった。女性が自身の希望する働き 方を選択でき、何かしたいと思ったときに踏みとどめられないようになっていけばと思う。また、女性の活躍という観点 から、男性と対等ということを意識しすぎず、女性らしさも活かしていけばいいのではないか。





父の経営する運送会社に事務として入社したが、義理兄が倒れたことがきっかけで、配車などの業務を担うことになった。トラックのこともわからず、目の前のことを一生懸命にこなしてきた。自分しかいないということで、社員など周囲の人が頼ってくれたことが自分のモチベーションにもなった。仕事に対する責任感を男女互いに理解することが大切であるとともに、自分自身で男女の壁を作らないことが大事。とは言いつつも、女性の強みは活かしていけばよい。

中岡氏

色んな職業の方に話を聞くことで、自分の将来の選択肢にしてもいいのではないかと思う。将来結婚した場合は、夫婦間での話し合いも大切にしつつ、夫には家事など何らかのサポートはしてほしい。



【パネリストからの意見(まとめ)】

生き方をデザインできる女性になるために大切なことは…

- ①女性自身が枠を作ったり、限界を設けないこと
- ②人目や世間体を気にしないこと
- ③過度に性別を意識しすぎないこと (でも女性の強みを活かすことも大事)
- ④責任感を持って行動すること



イベント当日の模様⑤

第3部 交流会

講師・パネリストも交えて和やかな雰囲気の中、参加者同士で意見交換がなされました。会場の一角には、斑鳩町商工会女性部の活動を紹介するブースも設けました。







参加者の声

参加者アンケートで寄せられた感想・意見を紹介します。

- ◆第1部基調講演(野老氏)の話に感銘を受けた。大きなことはできないかもしれないが、私にしかできないことを頑張っていきたい。
- ◆第1部基調講演(野老氏)の話全てに納得。そしてヒントになる言葉もたくさんあった。
- ◆第2部パネルディスカッションでは、パネリストの方に聞きたかったことが次々に聞けて、とても参考になった。
- ◆仕事や起業の為になるだけでなく、例えば学校の保護者会等にも参考になる話を聞けた。

最後に

今回のイベントが、参加いただいた方の、自分らしい働き方や生き方といった、今後のキャリア形成やライフデザインの参考となるとともに、就業や起業の促進といった観点から地域経済の活性化に繋がっていくことを期待しています。

ご登壇いただいた野老様、井尻様、川端様をはじめ、共催の帝塚山大学の 菅教授、熊谷教授、鈴木様、斑鳩町商工会女性部のみなさんにこの場をお 借りして感謝申し上げます。

